

ヒロシマに一番電車が走った

～300通の被爆体験手記から～

1 対象学年 中学3年生

2 ねらい



本学級の生徒たちは、これまでに国語科や社会科の学習を通して、戦争が悲惨なものであるという知識を獲得している。しかし、現在の日本では戦争に直接関わる機会がないため、他国で戦争が起きていても他人事としてとらえ、戦争が行われている現地ではどのような状況になっているのかをよく理解していない。また、戦後70年という月日が、戦争を遠い過去の出来事にし、平和についての意識を低下させてしまっている。そこで、これまでに学習してきた「広島原爆」を少し掘り下げて学習することで、平和について改めて考えるきっかけをつくらうと考える。

本授業は、NHKスペシャル「ヒロシマに一番電車が走った～300通の被爆体験手記から～」というアニメーションと被爆者の証言映像を使うことにより、原爆の悲惨さを具体的に知ることで戦争について考えやすくした。前半はアニメーションを見ることで、被爆前後の少女の心の変化を感じ取らせる。後半は被爆証言映像を見せることで、戦争を生き抜いた人々がその後どのような人生を送ってきたのかを具体的に知らせる。これらの映像を通して、今後の自分の生き方を平和という視点を踏まえた上でまとめさせることで、平和についての意識高揚をはかりたい。

3 準備




DVD（「ヒロシマに一番電車が走った」NHKティーチャーズライブラリーより）
ワークシート、フラッシュカード

4 A 指導計画（1時間目）

時間	おもな学習活動	○教師の支援・指導上の留意点
5分	1 他教科での学習も踏まえて、戦争について知っていることを共有する。 ・殺し合い ・原爆 ・疎開	○戦争についての幅広い知識を引き出すために、班でウェビングを行う。
35分	2 アニメーションを見て、設問について考える。 ① 戦時中と現在の生活の違いは？ ・子どもでも働いているんだな。 ・遊ぶ時間はなさそうだな。 ② 壊滅した街を目の当たりにした少女の気持ちは？ ・何でこんなことになったのか。 ・お母さんは大丈夫なのか。 ③ 戦争について考えたことは？ ・戦争は怖いな。 ・戦時中は常に死と隣り合わせだ。 ・もう2度と起こってほしくない。	○あとから内容を整理するために、映像を見ていて印象に残ったキーワードをメモするように指示しておく。  壊滅した街を見る少女  再び働き始める少女と街の人々

	<p>3 次時に向けて、戦争を生き抜いた人々の気持ちを想像させる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">少女が現在も生きていたら、どんな気持ちで生活しているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2度と戦争が起こってほしくない。 ・ 戦争の悲惨さが消えてしまわないように、後世に語り継いでいる。 	<p>○ 戦争は死ぬことだけが辛いのではなく、生き残っても辛いことはたくさんあることを理解させるために、幸せに暮らすことができているかという視点を必要に応じて与える。</p>
5分	<p>4 3の設問について自分の考えを発表し、班の中で交流させる。</p>	<p>○ 意見を交流させることで、次時のかたりべの話へつながるようにする。</p>

4B 指導計画（2時間目）

時間	おもな学習活動	○教師の支援・指導上の留意点
5分	<p>1 教師の話聞き、前時のふりかえりをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戦争は身も心もボロボロになるな。 	<p>○ 前時のふりかえりをしやすくするために、ワークシートからキーワードをまとめ、プリントにして配付する。</p>
35分	<p>2 3人のかたりべが戦争について話している映像を見ながらワークシートにメモを取り、発表する。</p> <p>① 原爆で家族を失い、本人も大火傷を負った吉田さんの話。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どものために生きなければならないと思う親はすごいな。 <p>② 家族全員が被爆し、原爆症と闘ってきた藤井さんの話。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今もなお息子の生死がわからないなんて辛すぎる。 <p>③ 原爆によって家族を失い、その後1人で生きてきた松本さんの話。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 原爆症で未だに苦しんでいる人がたくさんいるんだな。 	<p>○ 教師がかたりべの簡単な紹介をしてから映像を流し、ワークシートにまとめさせる。それぞれを混同しないようにするために、1人ずつ進める。</p> <p>○ 戦争の恐ろしさを明確にするために、被爆者が苦しんでいる様子に注目できた生徒の発言を色チョークで目立つように板書する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>吉田さん</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>藤井さん</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>松本さん</p> </div>
10分	<p>3 平和な世の中であり続けるために自分ができることを考え、平和宣言を作成する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">平和宣言を作成しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暴力をふるわない。 ・ きちんと話し合う。 ・ 嘘をつかない。 ・ 相手を信じる。 	<p>○ 自分の考えをまとめさせるために、周りとは相談せず、書いても声を出さないように指示する。</p> <p>○ 戦争体験者が深い悲しみを胸に秘めて戦後を生き抜いてきたことを踏まえ、自分の生き方について身近にできることを考えさせるようにする。</p>

5 実践のまとめ

(1) 1時間目の導入について

「戦争」というキーワードからウェビングをスタートさせたところ、「怖い」や「辛い」といった感情を表す言葉、「原爆」や「核兵器」といった物を表す言葉、「広島」や「長崎」といった戦争に関わった地名を表す言葉など、さまざまな言葉が挙げられた。

(2) 1時間目の授業の流れについて

ワークシートを配付し、アニメーションを見ながら設問の答えを記入するという指示を出した上で、35分程度のアニメーションをコンピュータ教室で視聴させた。設問はアニメーションの時系列に合わせたため、どの生徒もワークシートを記入することができた。

アニメーションを見ている生徒の様子としては、明らかに量が少ない食事を見たときに「少なっ!」という言葉が思わず漏れたり、原爆が落ちた後の悲惨な映像を見たときに目を背けたりと、映像の世界にどっぷりとつかっているようだった。ワークシートのそれぞれの設問に対する生徒の回答は以下の通りである。



ウェビングの様子（板書）

設問1	戦時中と現在の生活の違いは？
回答	・子どもでも働かなければいけない。 ・食べ物が少ない ・服装が違う。
分析	映像を実際に見ることで、現在の生活との違いを容易に見つけることができていた。

設問2	壊滅した街を見たときの少女の気持ちは？
回答	・辛い。 ・地獄だ。 ・どうしてこんなことになってしまったの。 ・お母さんはどこに行ったの。 ・これからどうになってしまうの。
分析	さまざまな回答があったが、会話調で記入されているものが多かったことから、少女の気持ちに感情移入して回答している様子がうかがえる。

設問3	戦争について考えたことは？
回答	・当たり前が当たり前でなくなるので怖い。 ・戦争は絶対に必要ない。
分析	戦争に対する恐怖心が表れているものと、不戦の思いが強く表れている2種類の回答に分かれた。

以上の設問は、アニメーションを視聴しながら記入させたものである。そして、次時へつなげるきっかけとする設問4については、アニメーション視聴後に時間をとって記入させ、何人かに発表させた。

設問4	少女が現在も生きていたらどんな気持ちで生活しているのだろうか？
回答	・どの国からも原爆がなくなってほしいことを願っている。 ・原爆の心の傷が消えず戦争のことを忘れずに生きている。 ・今生きている人の戦争に対する恐怖心が欠けていると思って生きている。
分析	戦後69年経った今もなお、戦争のことを常に考えて生きているのではないかという意見が圧倒的多数であった。

(3) 2時間目の導入について

前時で使用したワークシートに書かれた内容をまとめたものを学級通信とし、授業の冒頭で配付した。その上で、アニメーションの主人公であった少女が今もなお生きていたらおばあさんの世代になっていることを話した上で、「実際に戦争を経験した人たちの話を聞き戦争についてより深く知る」学習をするということを知らせた。

(4) 2時間目の授業の流れについて

映像による3人のかたりべの話を読み、それぞれの話で「心に残った言葉」と「その言葉から感じたことや考えたこと」をワークシートにまとめさせた。戦争についての話という共通点はあるものの、3人のかたりべが話す内容はそれぞれ異なっているため、映像を1人ずつ区切り、話を聞いてワークシートにまとめて発表するという学習を3回くり返すことにした。詳細は以下の通りである。



映像を視聴する生徒の様子

①吉田さん	原爆で家族を失い、自分も大火傷を負った。
生徒の様子	苦しすぎる現実、「死んでもいいと思った」という吉田さんの言葉から、同じ立場だったらきっとそう思うという共感する生徒が多かった。 残された2人の子どものために「神様どうか生かしてください」という言葉から、自分以外の命のために生きたいと思う心のきれいさに感銘を受けた生徒もいた。

②藤井さん	家族全員が被爆して原爆症と闘ってきた。重症を負って辛いはずなのに自分のことを気にかけてくれた姉のことを涙ながらに語っていた。
生徒の様子	「姉の顔が骸骨のようになっていた」という言葉から、原爆は生き残った人にも後遺症を引き起こすので怖いと考えた生徒がいた。 藤井さんの姉の人柄を示す「真似できないほどの親切さ」という言葉から、自分が苦しくても周りのことばかり考える思いやりのすばらしさを実感し、自分もそんな思いで行動していきたいと考えた生徒がいた。

③松本さん	原爆によって家族を失い、ずっと1人で生きてきた。
生徒の様子	私だけ生き残って辛い」という言葉からは、自分も1人ぼっちになってしまったときのことを考えると恐ろしいという松本さんに共感する意見と亡くなってしまった家族の分まで精一杯生きようとする松本さんの姿勢を尊敬する意見が多かった。 自分以外の家族が死んでしまうなんて今の私たちには考えにくいことなので、戦争経験者は私たちが感じることをできない辛さを背負い、今もなお苦しみ続けていることを改めて知った生徒も多かった。

生徒たちは、戦争は人々を直接死に追いやるだけでなく、絶望に突き落とすことで生きようとする気力を失わせる力もあるということ学んだ。また、今の自分の生活と照らし合わせて考えた生徒は、自分の生活は精神的にも経済的にも家族の支えによって支えられているので感謝したいという思いをもっていた。

(5) まとめについて

不戦の思いを身近なレベルで考えさせるために「平和宣言」を作成させた。核兵器を根絶するといった大きなことではなく、人と人が争わなくてもいいようにするためには何が必要か、この学級の平和を維持するためには何が必要か、そのために自分ができることは何かを考えさせ、簡潔に記入させた。以下は、その平和宣言の一例である。力による解決をはからないということと、周りの意見にしっかりと耳を傾けて行動するという意見がとても多かった。

話し相手などの気持ちもたし考えて話す!

毎日挨拶をできるだけみんなに笑顔にする。

思いやり、助け合いの精神を持つ

自分の事ばかりじゃなく、人の気持ちを考える

みんなが平和に暮らすために ^{ア(中か・戦争)}感情をすぐ表に出さず、話し合いで問題を解決するために、相手の意見や考えを理解し、尊重していく。

生徒が作成した平和宣言（一部を抜粋）

- ・喧嘩をしない。
- ・悪口を言わない。
- ・話し合いで解決する。
- ・思ったことをすぐ口に出さない。
- ・互いの意見を尊重し合う。
- ・相手の意見も受け入れる。
- ・意見を聞く。
- ・人のために行動する。
- ・友だちの心配りに感謝する。

生徒が作成した平和宣言（代表的なもの）

6 成果と今後の課題

(1) 導入について

導入では、指名せずに自由発言によってウェビングを円滑に進めることができた様子から、戦争について意欲的に学習する方法として、適切であったように感じる。

生徒たちは映像が流れ始めるとすぐに画面を注視していた。映像のもつ力はとても大きく、言葉で説明するよりもわかりやすい。しかし、一定の時間が割かれてしまうのが難点であるため、映像を見る時間や考える時間、意見を交流させる時間を計画的に配置することが大切である。また、映像が生徒の実態（成長段階）に適合しているのかも重要な点である。

(2) アニメーションを用いた学習について

アニメーションを見ながら被爆前後の少女の心情の変化を読み取る学習活動については、少女に感情移入して気持ちを考えることで、戦争の悲惨さを具体的にとらえることができたと考える。また、少女の今の生き方を予想させ考えさせることで、戦争が遠い過去に起こった完結している出来事ではないということを、生徒たち間接的に感じることもできたのではないかと思う。

(3) 1時間目と2時間目のつながりについて

1時間目と2時間目の授業の間は1週間程度しかなかったが、教員が生徒の意見をまとめたものを配付することで、ポイントとして押さえてほしい内容を意識させた上で本時の学習に入ることができた。ワークシート返却よりも手間がかかるが、映像を視聴するのに時間もかかるので、授業時間を節約するには良い方法だと考える。

(4) かたりべの映像を用いた学習について

映像を視聴する生徒を観察していると、2時間目の戦争経験者が涙ぐんで話す様子を見て、思わず涙してしまう生徒もいた。1時間目のアニメーションで戦争の実態を広く知り、2時間目の3人のかたりべの映像を通して、原爆で今もなお苦しみ続けている人がたくさんいるということや自分たちの当たり前になっている生活がとても幸せなものであるということを感じ取らせることができた。そして、戦争に関する表面的な知識と怖いという程度の思いが、戦争が人々に与える苦しみについて深く知ることで、すべての生徒が不戦の思いを高めることができた。

(5) 今後の課題（授業構成）について

最後に、平和宣言までじっくり時間をとって取り組む場合、2時間の授業では収まらない可能性が高い。2時間の授業を終えた上でさらに調べ学習を実施し、その上で平和宣言をつくるという3時間計画や4時間計画にするのも1つの手であるとする。

道徳プリント（第4回-①）

[]番 氏名 []

- [] から連想されるキーワードは？
- 映像を見て感じたこと、考えたことや印象に残ったセリフなどをメモしながら、次の①から③までの問いに答えよう。

① 戦時中の生活は現在の私たちの生活と何が違うかまとめよう。

② 壊滅した街を見たときの少女の気持ちを考えて書こう。

③ 映像を見て、戦争について思ったことや考えたことを書こう。

- 主人公の少女が今も生きていたら、どんな思いをもち、どんな様子で生活しているか、想像して書こう。

道徳プリント（第4回-②）

[]番 氏名 []

- 4人の戦争経験者（かたりべ）の話聞いて、心に残った言葉と感じたことや考えたことをまとめよう。

① 吉田さんの話を聞いて

心に残った言葉	感じたこと・考えたことなど

② 藤井さんの話を聞いて

心に残った言葉	感じたこと・考えたことなど

③ 松本さんの話を聞いて

心に残った言葉	感じたこと・考えたことなど

★ [] を作ろう！

授業で使用したワークシート（左：1時間目・右：2時間目）

※ 本実践で取り上げたDVDでなくとも、愛教組平和教育資料にある「アニメーションDVD+かたりべDVD 2014年度版」の組み合わせでも追試可能である。